

わが国周辺海域における BSR 分布域ー西部南海トラフにおける予察結果

The distribution of BSR off Japan-Preliminary studies in the Western Nankai Trough

林 雅雄 [1]; 佐伯 龍男 [1]; 稲盛 隆穂 [1]; 小林 稔明 [1]; 中水 勝 [1]; 藤井 哲哉 [1]

Masao Hayashi[1]; Tatsuo Saeki[1]; Takao Inamori[1]; Toshiaki Kobayashi[1]; Masaru Nakamizu[1]; Tetsuya Fujii[1]

[1] JOGMEC

[1] JOGMEC

既往調査結果から、わが国周辺の海域に広範囲にわたって賦存すると考えられているメタンハイドレートは、次世代の国産エネルギー資源になるかもしれないと期待されている。その商業生産を視野に入れて設立されたメタンハイドレート資源開発研究コンソーシアム(通称 MH21)は、特に東部南海トラフ海域において、2001年以降様々な調査を実施してきた。具体的には、対象海域のメタンハイドレートポテンシャルを評価するために、二次元・三次元地震探査、複数坑井の掘削、検層の実施、コア試料の採取が行われた。これらのデータの総合的な解釈と評価により、タービダイト砂層がメタンハイドレートの良好な賦存層となっていることが明らかになった。

東部南海トラフにおける、分解能に優れた三次元地震探査データの解釈により得られた知見を、隣接する西部南海トラフの二次元地震探査データの BSR や堆積層の解釈に活用し、その海域におけるメタンハイドレートのポテンシャル検討が開始されており、その予察的結果について報告する。同海域には DSDP や ODP (国際深海掘削計画) による学術的な坑井が掘削されており、これらにより捉えられたメタンハイドレートの兆候に基づいて、解釈された BSR の有する意義について考察する。

また、1995年から2000年まで旧石油公団が民間企業と実施した、メタンハイドレートに関する共同研究によってまとめられた、わが国周辺海域における BSR の分布についても報告し、併せて、世界におけるメタンハイドレート分布域について、JOGMEC が得た最新情報に基づいてまとめた結果を呈示する。

本業務は MH21 の研究業務の一環として行われているものである。